

はしがき

佐々木嘉則（お茶の水女子大学）

この冊子は、文部科学省科学研究費補助金の助成を受けた「第二言語としての日本語習得研究のレビュー論文集編纂と刊行・オンライン配信」（基盤研究（C）（2）2002～2004年度 課題番号 14580326）の成果報告書である。通常、科研報告書には数年にわたる一連の研究の成果として多くの論文やデータが一挙に掲載されるのが慣例となっている。しかしながら、本プロジェクトが掲げたレビュー論文の執筆と論文集の刊行という目的は、過去3年にわたり総計900ページに迫る3冊の論文集を発行し、国内外の研究教育機関にそれぞれ数百冊を寄贈するという形で既に達成されている。また、収録論文の題目・要旨・詳細目次・正誤訂正表などは下記のホームページ上でも公開されている。

『第二言語習得・教育の研究最前線』ホームページ

<http://jsl2.li.ocha.ac.jp/saizensen/index.html>

したがって、この報告書ではそれらの研究論文をあらためて収録することはせず、それにかわりこのプロジェクトの目的、成果、今後の課題などを研究者の立場、大学教員の立場、学生の立場という3つの観点からふりかえることにしたい。

そういった報告書の性格上、凝った装丁の冊子を大量に印刷して諸方に配布する必要性は薄いと判断した。したがって、印刷は簡素な形式にして部数も必要最小限にとどめ、そのかわりテキストをPDF化してインターネット上でアクセスできるようにすることを予定している。

上に述べた本報告書の「3つの観点」のうち「研究者の立場」と「大学教員の立場」からは主に本稿筆者（佐々木）が論じたが、「学生の立場」からは、このプロジェクトの開始当時からゼミ生として参加した大関浩美氏に寄稿をお願いした。これからレビュー執筆に挑もうという若手研究者にとっては示唆に富む一文であると思う。同氏がこの記事を入稿したのは博士論文の完成を控えた多忙な時期であったが、その後まもなく論文最終審査に合格して無事学位を取得されたことを付記しておきたい。

2005年3月1日 佐々木嘉則